

# 水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 3 報  
千葉県農林水産部  
令和元年6月18日

## 「ふさおとめ」「ふさこがね」は穂肥の時期です いずれの品種も茎数はやや過剰気味です

### [ 生育概況 ]

6月7日頃に関東甲信地方は梅雨入りしたと見られ、第2～3半旬の気温はやや低くなりました。その低温の影響で、5月31日時点に比べて生育進度はやや遅くなり、現在は「並」～「やや早」となっています。また、4月20日植えのうるち品種は、茎数が多く、葉色も濃くなっています。また、「ふさおとめ」、「ふさこがね」は既に幼穂形成期を迎え、「コシヒカリ」は6月20日頃からとなる見込みです。

表1 品種別の生育状況（6月14日現在）

品種	植付時期	平年比※1			
		生育進度※2 (幼穂形成期※3)	草丈	茎数	葉色
ふさおとめ	4月20日	並(6月13日)	並	やや多	やや濃
ふさこがね	4月20日	やや早(6月14日)	並	やや多	並
コシヒカリ	4月20日	並	やや長	やや多	やや濃
	5月1日	並	並	並	やや濃
ふさのもち	4月20日	やや早	やや長	多	やや淡
	5月10日	並	並	やや多	並

※1 平年比は過去10か年（2009～2018年）の平均値との比較

ただし、「ふさのもち」は過去9か年（2010～2018年）の平均値との比較

※2 幼穂形成期の実績値および予測値により判断

※3 幼穂形成期は、農林総合研究センター（千葉市）のほ場

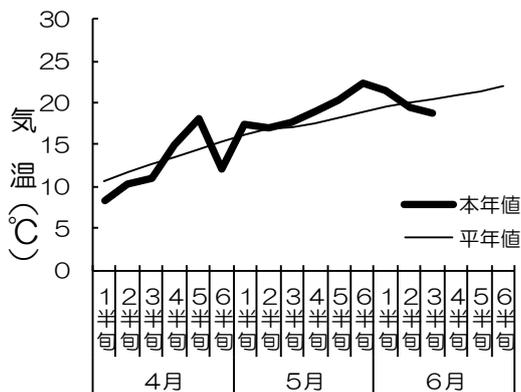


図1 日平均気温の推移（アメダス、佐倉）

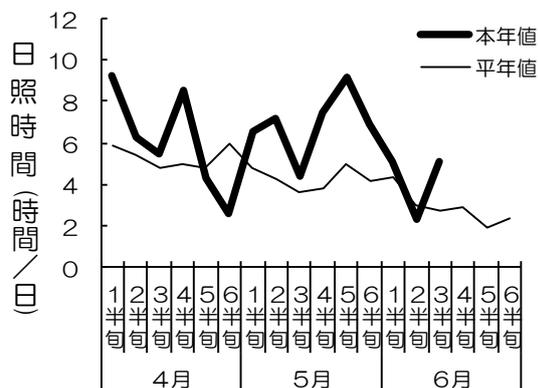


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

## [ これからの管理のポイント ]

### ■生育の進みに応じた適期作業の実施

「ふさおとめ」の幼穂形成期は平年と比較して2日程度早く、「ふさこがね」は3～4日程度早くなっています。また、「コシヒカリ」は2日程度早くなる見込みです。

現在、「ふさおとめ」と「ふさこがね」は穂肥の時期を迎えていますので、早めの準備が必要です。「コシヒカリ」は茎数が多く、徒長気味で、葉色がやや濃く推移しています。穂肥を実施する際は、必ず幼穂長を確認し、施用の時期を判断しましょう。

### ■穂肥の実施

穂肥の施用時期が早いと倒伏や籾数過剰による登熟不良や玄米外観品質低下を招くおそれがあります。品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安（表2）を参考に、穂肥を施用しましょう。

表2 品種別・地域別の幼穂形成期予測及び穂肥施用適期の目安

品種	植付時期	幼穂形成期予測				穂肥施用適期の目安
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)	
ふさおとめ	4月20日	6月17日	6月14日	6月13日	6月15日	幼穂形成期から1週間以内 【幼穂長 1mm～1cm】
ふさこがね	4月20日	6月18日	6月15日	6月14日	6月15日	幼穂形成期から7日後頃 【幼穂長 1cm】
コシヒカリ	4月20日	6月23日	6月20日	6月20日	6月21日	幼穂形成期7日後頃～ 15日後頃の間 【幼穂長 1cm～8cm】
	5月1日	6月29日	6月26日	6月26日	6月27日	
飼料用米 (アキヒカリ)	5月15日頃	6月26日頃～				幼穂形成期前5日頃から 幼穂形成期後5日頃 (ただし、最高分げつ期に葉 色が低下した場合は、すぐに 追肥)
飼料用米 (夢あおば)	5月15日頃	7月3日頃～				

※幼穂形成期は、4月20日植付の「ふさおとめ」「ふさこがね」は水稻作柄安定対策調査結果の実測値から。その他は、H28千葉県試験研究成果普及情報を基に予測。ただし、飼料用米は、水稻作柄安定対策調査結果等を参考に予測。

各品種の10a当たりの施肥量は、窒素と加里を成分量で各3kg(房総南部の粘質土では、窒素成分を「ふさおとめ」は1～2kg、「ふさこがね」は2～3kg、「コシヒカリ」は2kg)です。

幼穂形成期の目標生育量（表3）を参考に、生育量が目標を超えている場合は、施用適期の範囲内で追肥時期を遅らせ、減肥しましょう。

なお、「飼料用米多収品種（専用品種）」は、窒素を単肥で3kgが目安となります。

表3 幼穂形成期の目標生育量

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )			葉色 (カラー スケール値)
		砂質土	壤質土	粘質土	
ふさおとめ	55 以下	570~620 (31~34 本)		520~570 (29~31 本)	4.0
ふさこがね	60~65 以下	450~500(25~27 本)			5.0
コシヒカリ	70 以下	430~560( 23~30 本)			3.5~4.0

※茎数の ( ) 内は 30cm×18cm で植付された時の 1 株平均茎数

## ■水管理

中干し後は間断かんがいを行い、その後、幼穂を確認したら入水を開始し、出穂 3 週間前から出穂 2 週間後までは湛水管理(※)を行います。

(※) 自然由来のカドミウムの吸収を抑えるために必要な技術です。

## ○飼料用米の中干し

5月15日頃に植付した飼料用米の「アキヒカリ」、「夢あおば」は6月中旬頃から中干し開始適期となります。

なお、飼料用米における中干しは、茎数増加に影響しない程度とし、収穫時に大型機械がスムーズにほ場に入れるようにしましょう。

## ○低温時には湛水（飼料用米は特に注意）

幼穂形成期以降に日平均気温 20℃以下の低温が持続すると予想される場合は、冷害防止のために深水で湛水（保温）しましょう。

特に冷害危険期とされる幼穂形成期後10日～15日（出穂前15～10日）は、湛水の深さを20cm程度とします。

表4 品種別の冷害危険期

品種	植付時期	冷害危険期予測（千葉市）※ （冷害危険期は、下記から5日間）
ふさおとめ	4月20日	6月23日*
ふさこがね	4月20日	6月24日*
コシヒカリ	4月20日	6月30日*
	5月 1日	7月6日

※農林総合研究センター（千葉市）の実測値から予測

## ■病害虫防除

農薬の使用に当たっては、収穫前使用基準等の登録内容を良く確認して、適期に防除しましょう。

## ○いもち病

いもち病は、平均気温20～25℃で曇雨天が続く場合に発生しやすいため、予防として常発地では粒剤を散布しましょう。粒剤の散布時は3～5cmの湛水状態とします。

## ○紋枯病

梅雨の時期は感染しやすい条件となるので、飼料用米多収品種のような多肥栽培や常発地では、予防剤を散布しましょう。

表5 いもち病、紋枯病の主な防除薬剤（粒剤）

薬剤名	病害名	
	いもち病	紋枯病
オリゼメート粒剤	○予防	
キタジンP粒剤	○予防	
ゴウケツ粒剤	○予防	
コラトップ 粒剤 5/ジャンボP	○予防	
ブイゲット粒剤	○予防	
フジワン粒剤	○予防	
ルーチン粒剤	○予防	
モンガリット粒剤		○
モンカット粒剤		○

## ○イネクロカメムシ

イネクロカメムシの被害は、生育初期では葉の黄白色斑点、葉先枯れ、株の矮小、心枯茎の発生、幼穂形成期以降では出すくみ穂、白穂、不稔粒、屑米が発生します。株元に成虫の発生が多い場合には、薬剤防除をします。

（防除薬剤例：スタークル/アルバリン粒剤、10aあたり3kg、収穫7日前まで3回以内、または、エルサン粉剤2、10aあたり4kg、収穫7日前まで2回以内）

## ○斑点米カメムシ類（畦畔雑草の草刈り）

畦畔雑草は斑点米カメムシ類の生息場所となり、出穂前後の草刈りは斑点米カメムシ類をほ場の中に追い込みますので、出穂2週間前までに畦畔雑草を刈取ります。

表6 品種別の出穂期予測

品種	植付時期	出穂期予測
ふさおとめ	4月20日	7月9日
ふさこがね	4月20日	7月10日

※H28千葉県試験研究成果普及情報を基に予測（千葉市）

過去に掲載した内容や病害虫の発生予察情報等については、千葉県ホームページ「生育情報」を御覧ください。（ <https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiku/index.html> ）

次回の「水稻の生育状況と当面の対策」は、6月27日に発行予定です。